

道路アセットマネジメントプラットフォーム  
第7回国内支援委員会

今後のスケジュール及び検討事項について

2023年  
4月14日

## 第6回国内支援委員会

- ①道路AM成熟度評価・特殊橋梁維持管理調査
- ②RAMP活動における産学官連携の取組み



2023年  
12月18日

## 第7回国内支援委員会

- ③RAMP長期研修員事業（フォローアップ、効果確認）
- ④課題別研修

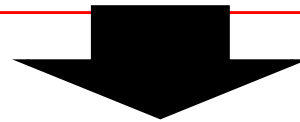


2024年  
6月(予定)

## 第8回国内支援委員会

次回

- ✓ RAMPの今後の活動方針や事業戦略の発表



2024年  
6月(予定)～

更なるRAMP活動の展開・深化

RAMP事業に改めて期待すること。

<JICAがRAMP事業を通じて目指したい事項（案）>

**①開発途上国における道路の性能向上**

目標：2035年の開発途上国の道路構造物の状態を改善する（IRI●以下、要対策橋梁●以下）



- 技術協力プロジェクト
- 課題別研修
- RAMP長期研修員事業

**②日本と開発途上国の道路関係者とのネットワーク構築**

目標：帰国研修員の日本企業・大学・JICAとの関係の継続状況



- RAMP長期研修員事業

**③日本社会・経済への貢献**

目標：RAMPで検証・採用された技術・知見の日本（自治体、民間企業等）への還流状況



- 民間連携スキーム
- 技術セミナー
- 課題別研修

**問 開発途上国における道路アセットマネジメント分野での JICA事業はどのような観点・要素で評価されるべきか？**

(注) 評価のタイムスパンは「中長期(5年～10年程度)」とし、RAMP活動(技プロ、研修員事業、課題別研修等)が上手くいっているか否かという点で評価することとする。

## <JICAとしての指標(案)>

成熟度●以上の道路管理者数が●以上、RAMPを通じて幹部人材を●人以上育成、留学生の日本企業・大学・JICA等との本邦関係者との関係の有無、RAMPで検証・採用された技術知見の還流状況

IRI及び橋梁の健全性の向上(要対策橋梁数の減)等、留学生の日本企業・大学・JICA等との本邦関係者との関係の有無、RAMPで検証・採用された技術知見の還流状況

道路管理者の成熟度、点検カバー率、中長期の維持管理計画の策定等、留学生の輩出数、課題別研修受講者数、海外での民間企業の実証事業数

